

1 絶対値, 数の大小

次の問いに答えなさい。

(1) 絶対値が 3.5 より大きく 6 より小さい整数のうち, 負の数をすべて答えなさい。

【 】

(2) -0.3 と $-\frac{2}{7}$ の大小を, 不等号を使って表しなさい。

【 】

(3) $-\frac{11}{5}$ より大きく $\frac{19}{6}$ より小さい整数はいくつありますか。

【 】

(4) 次の数を小さい方から順に並べなさい。

$$0.9, -\frac{7}{3}, 0, -2, \frac{5}{4}$$

【 】

2 正の数・負の数の加法, 減法

次の計算をしなさい。

(1) $9 + (-15)$

【 】

(2) $-18 + 27$

【 】

(3) $-1.3 - (+0.4)$

【 】

(4) $\frac{1}{5} - \left(-\frac{1}{5}\right)$

【 】

3 加法と減法の混じった計算

次の計算をしなさい。

(1) $6 + (-19) - (-12) - (+7)$

【 】

(2) $-3.2 - (-5.1) + (-0.8)$

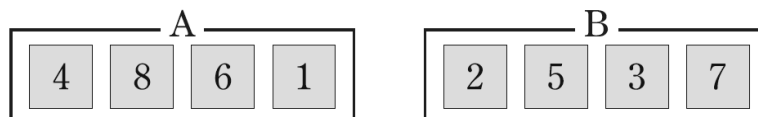
【 】

(3) $\frac{3}{4} - \frac{7}{6} - \left(-\frac{1}{12}\right)$

【 】

4 加法と減法の混じった計算の利用

下の図のように、1 ~ 8 の数字カードを A, B の 2 人に分けた。偶数の数字カードは正の数の点数を、奇数の数字カードは負の数の点数を表す。たとえば、1 の数字カードは -1 点，2 の数字カードは +2 点を表す。



A, B それぞれが 1 枚ずつカードを出し、合計点数を計算するとき、次の問いに答えなさい。

(1) 合計点数がいちばん小さくなるときの点数は、何点ですか。

【 -8 点 】

(2) 合計点数が 5 になるときの A, B が出したカードの数字は、それぞれ何ですか。

【 A , B 】